

李家みえばん

一九七九・二・二六
伊勢市 吉市町
百万石編集部

百万石

百万石編集部

(ごじつ譚)

新年会は一月十四日、安楽島の竹内橋本館講師による合同評会が、さすがに値うちあり、東京の本場の風になれたよな。泉先生より一万円の二喜ふあり。長先生からも後日、支部寄贈一万円。

一月二十五日 理事会開かる、於ケルン、会と自分。遂に二三里支部にも理事会と銘うつ会(会)が持たれるようになった。スミオ支部長の施政方針は伝の通り。

1. 創作活動の向上 特にノビリノビ達の底上げを
2. 鈴鹿例会など 地域例会の展開。
3. 津で写真教室をもちたい。陸のふりに期待。
4. 事務局体制の確立 機関紙の消化について。

この会の終る頃、清水事務局局長(然、フアリと)席をはずす。

(風のたより)

- 。 二月はじめスキー坊や本年も元氣よく出発(誰?)
- 。 小林さん「津川通い始める。気まぐれか、本気が。」
- 。 宮間さん「おんませさん」の、ん、の意味を問う、と難問提示す。誰かおんまを百万石編集部まで。
- 。 吉岡さんのコンタクトより、新田里、発見される。
- 。 平本さん、比布屋通い。二んぶらふねふね。
- 。 篤ちゃんに夕離の相とバラバン教祖のたまう。
- 。 ハルさん、暗室新設。清水さん暗室に近代設備。
- 。 新美さん3月のはじめ北海道利尻島へひとり旅。

(事実の報道) 清水事務局局長、空如引退。健康上の都合は止むを得ず。支部の引退に憂うつ感濃く。(2/19)

。 急遽、川北陸の子事務局局長に就任(ジャー)ついに愚かなる理事たち、眠れる獅子を起す。いやさ、眠れる、入墨回りを起こしたるか。(2/14) 本部より真剣なアンケート来たる。難解なる設問なるも各自解答を出したもよう。(2/19)

(新鮮なニュース) 総門視覚三重展実行委員長(長兼支部展実行委員)心強い談話。30万くらいでよろしいかな。なにが? 1. もうけるかく、はい、視展を飾ける(金額です) 一同一瞬の沈黙。そしてその後、賛嘆のまなざし。 2. 思えば、昨年は新美ケンが中心になって、そして比自心機して15万儲けたのでした。あの日あの時、会場に於ける若ちゃんと宗子さんの優雅にして敬肅なる、カンパのひたくり。(思い出しますネ、思い出しますネ)

へ今年も一丁いきましょ。考えをみると、視覚ニ重展は力米のなる不でもありました。 (以上、吉市公民館にてスフィア)

さて伊勢の例会の席上、長先生の長文の礼状朗読される。一堂シーンとしてしまう。そして拍手喝采。 やがてしみじみ感満つ。

(津例会のこと) 二月二十二日、於しストラノ河濱。伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ 例会は掛けは柳生でもつヤトコローヨイヤヤ

柳生さんと言えは不思議ふしあのマジシャン。せんだってまで少女の絵本のような、た浮身解を一月の間、なんとも、幽玄に無難なる作品として完成。一同をケムに捲く。

新人(会幹補)いぞやま氏出席。昨年生まれのおも。清潔なる長髪と眼かなが何故か印象に残る人。二種入道教回の際、「おんまをわねらの眼前にその勇姿を現わす。 彼の眼を見て、「すばらしいぞすね」を連発。おんまか、本立の。 後日柳生さんの腕次方とみる。 溫和いそうなく柄。是非ご入会を、いそやまさん。みんなお待ちしています。

和ちゃんのコンタクトブックに、遂に本会員となる(1月29日) という凍々しいお話を発見。何やら溜み見をしてしまったようなうらめたさを、覚えながら、心爽快となる。

(視覚展のノ切はまだまだ、もうすぐ) 入選しようと思つて、心算するがよし 落選してもいいと思つて、心算するがよし 4回連続入選してぞ 5回めで消えて行くならば(心算を止めるならば) 5回連続落選に及ぼす。

(石スミオ語録より) 結核後記 ぐうたらはん、もやんぐみえはん、も消えたりではありません。二んか、百万石はんか、新たにかかりましたので、よろしくお願ひします。編集方針は、兵は精進を講ぶがす。(ヨークン)